

●トップマネジメント事業を実施

トップマネジメント(職能別)の強化にかかる事業の一環として、四つの会議が開催された(学長会議については前号で既報)。

財務・人事担当理事者会議第一回「持続的な成長・発展のための経営・財務戦略の確立に向けて」(7月19日〜20日・東京)。73法人102名が参加。監事会議「監事監査機能の充実・強化」(8月21日〜23日・京都)。61法人82名が参加。

教学担当理事者会議「高等学校教育と大学教育の円滑な接続・連携の強化」(8月29日〜30日・兵庫)。53法人54名が参加。

理事者会議「改めて問われる私立大学の自主性・自律性―規制改革と公財政支出との関連で―」(9月2日・東京)。62法人86名が参加。

お知らせ

本誌「大学時報」は、連盟ウェブサイトをより閲覧できます。  
<http://www.shidaren.or.jp/activities/daigakujinhou>

□三十年も前のことだが、高校時代の友人が同じ大学の機械工学科に入学したところ、九十名ほどの同期生のうち女性が二名しかいないと落胆していた。高校は男子校だったが、「大学でも男子校か……」と言っていたのを今でも覚えている(大学全体では女子学生も多かったので男子校というのはおおげさだが)。現在では理系に進む女性も増えてはいるが、まだまだ日本全体の努力が必要である。

今回の特集では、大学の取り組みだけではなく、普段はあまり取り上げることのない高校や企業からも寄稿していただいた。理系女子は大学入学に始まり卒業で終わるのではない。理系に興味をもつ女子中高生をいかに育てるか、企業や社会で生き生きと働く女性を「ロールモデル」として、いかに次の世代に示しているかが、理系女子の増加には必要であり、高校―大学―社会(企業など)のより一層の連携が求められるところである。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・上智大学学術情報局長 大日方 聖信)

□ここ最近の「大学時報」では、さまざまな視点から「国際化」「グローバル化」の問題を取り上げてきた。浮かび上がってきたことの一つは、「国際化」「グローバル化」の意味する内容が、その組織や人、立場によつて全く異なるということだ。

ある人にとっては生き方の大きな転換であり、別の人には英語でビジネスの話ができる人数をどう増やして利益につなげるかという経営的な問題だろう。思いつくどんな場面でも活躍できそうな人材を想定した結果、異文化理解、リーダーシップ、主体性など、「グローバル人材」に求められる要素は語学力以外にも多岐にわたる。まるでスーパーマンだ。

そんな若干混乱した社会状況では、学生に「自分にとつてのグローバル化」を主体的に考える契機が必要だ。そう考え、「国内キャンパスにおける国際交流の推進」を小特集とした各大学の地道でこまやかな工夫をぜひご覧いただきたい。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・立教大学学生部学生厚生課 木村 健太)

□空を見上げれば遠く澄み渡る青空。酷暑と言われた夏も終わりを告げ、いよいよ秋を迎えることを実感する。秋は、食欲の秋、読書の秋などと言

われるが、実はジューン・ブライトに次ぐ、結婚式のシーズンであると聞いたことがある。

●企画案・「意見」感想の募集

今号のインタビューは、斬新な発想で結婚式の新しい概念を生み出し、数多くのプロデュースを手がけるウエディングプランナーの有賀明美さんにご登場いただいた。「心からの感謝には名前がついたありがたうがある」という、彼女の仕事への姿勢を見て、私も大きな刺激を受けたことは言うまでもない。(日本私立大学連盟事務局 番名 貴明)

●企画案・「意見」感想の募集

広報・情報部門会議(大学時報)では、購読者のニーズにより合致した情報を提供するため、企画案・ご意見ご感想を随時募集しております。

企画案は、同会議で検討させていただきます。ただし、過去の企画記事をご参照いただく、執筆者数、記事数、ページ数などの制約をご理解のうえ、お送りください。

①募集内容・企画案(テーマと趣旨)、②意見ご感想、③提出書式・自由(A4一枚程度)、④先

…daigakujinhou@shidaren.or.jp④その他…連絡先(お名前、大学名など)を明記ください。



